

The Ogura Times

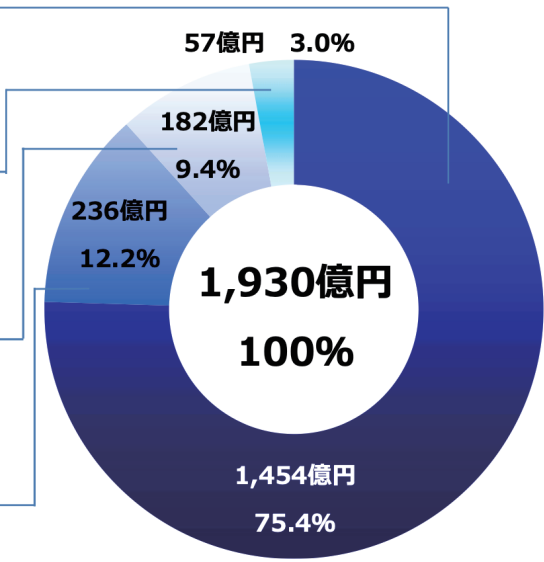
港区と区議会をもっと身近に

港区議会議員 小倉りえこ

2020.4 港区政レポート Vol.20

予算審議を含む、令和2年港区議会第1回定例会が開催されました。

- **一般会計**
※基本的な活動に必要な経費を計上した根幹となる会計
- **後期高齢者医療会計**
※後期高齢者医療に関する会計
・無料健康相談、基本健診、夏季・秋季保養施設開設等
- **介護保険会計**
※介護保険に関する会計
・要介護認定、保険給付、給付費通知等
- **国民健康保険事業会計**
※国民健康保険に関する会計
・各種保険給付、無料健康相談、医療費通知、特定健康診査等



令和2年度予算は1,930億円

港区の全体の予算は1,930億円と、昨年度の当初予算1,880億円より47億円増の額で予算が組まれ、共産党会派を除くすべての議員の賛成で可決されました。

人口が増えていることから特別区民税収入の増加に繋がり、得た税収は区民のためのサービスや安全安心のための事業に費やされます。

しかし同時に、ふるさと納税で区外に流出する金額も年々増加し、今年度は約52億円の減収と見込んでいます。予算内訳を見ますと、後期高齢者医療会計の予算分にはほぼ匹敵しそうな勢いです。

新型コロナウイルス感染症対策で変則的な議会が展開

感染症拡大防止策及び区民対応を最優先で行ってもらうため、予算特別委員会では出席人数を減らし、可能な限りの負担も減らす努力をすることになりました。通常ですと、「総務費」「衛生費」「土木費」など、予算事業別で口頭の質疑を行います。今回は書面で質疑をする選択をしました。会派を代表して総括質問にも立ち、区長・教育長に来年度予算に関して質問をしました。

緊急的な措置のための予算対応を

中小企業への無利子特別融資が始まりましたが、また高齢者や家庭向けなど、多様なニーズへ可能な限りの策が必要です。国や都の補正予算が組まれるまで、財政調整基金等と使って港区独自で柔軟な対応をするよう要請をしました。



増設で対応する中小企業向け特別融資

区長 ⇨ 新型コロナウイルス感染症は区財政への影響も避けられない。これまで積み立ててきた基金や緊急対応のために予算計上している予備費を活用して、必要な支援を迅速に行うなど、柔軟かつ積極的に対応する。



- 質問項目：**
- 【歳入】資源売却収入 【総務費】備品リース契約の考え方、庁内予算要求額 【衛生費】新生児聴覚検査 【土木費】地籍調査、土地所有者申請に基づく境界確定
 - 【総括質問】◆新型コロナウイルス感染症に関わる一連の対応 ◆港区業務継続計画の検証と見直し ◆緊急的な措置のための予算対応 ◆休校に伴う義務教育の継続 ◆オンライン学習の考え方 ◆東京2020大会◆港区版ふるさと納税制度◆内部統制制度 ◆職員の適正配置 ◆港区が目指したい男女平等参画 ◆リサイクルの視覚化 ◆受動喫煙防止対策 ◆児童虐待根絶のための啓発活動 ◆認定こども園◆聞こえの改善支援 ◆土砂災害対策
- *質疑まとめは公式ウェブサイトで公開中

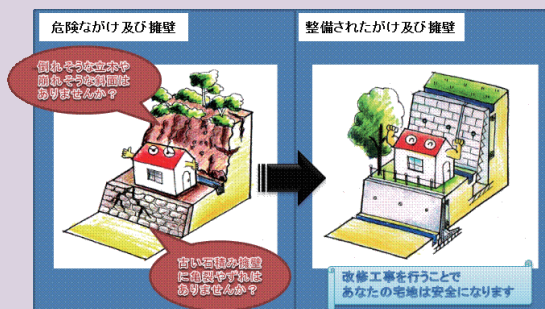


難聴対策に対する国の取り組みは自民党の主導で進んでおり、昨年末に支援を実現するための提言「ジャパン・ヒアリング・ビジョン」がまとめられています。医療政策のスペシャリストである武見敬三参議院議員、そして医師でもある自見はなこ参議院議員にご協力をいただきながら、港区とともに適切な制度の導入・普及に向けて協議を昨年から続けています。

聞こえにくさや聞こえづらさの解消は、誰もがいきいきと生活するための支えです。今回の定例会の自民党代表質問では会派からも難聴対策を取り上げ、補聴器使用の適正な支援について区長から非常に前向きな答えをいただきました。医師や補聴器専門技師、認定販売店との正しい連携と正しい情報の周知が必要であり、協議を進めて実用的な事業を1日も早く開始できるよう努めます。

昨年の9月、東京都は港区内の120ヶ所を新規に**土砂災害特別警戒区域**に指定しました。平成30年から港区の崖・擁壁改修支援は実態に即していない旨を指摘し続けた結果、来年度から工事支援の内容が充実されます。助成額と対象者が拡充され、新たにアドバイザーを派遣し、土砂災害対策の強化が行われることになりました。一般区域での助成割合は工事費の1/2で限度額500万円、そして土砂災害特別警戒区域における工事費1/2で限度額が10倍の5,000万円です。

危険箇所でも港区は所有者に対して改修の強制はできません。しかしこのような助成制度が拡充されただけでも、対象者には大きな支援になります。少しずつ工事件数が増え、危険箇所の減少に繋がることを期待したいと思います。



崖・擁壁改修に関するお問い合わせ：

街づくり支援部建築課 構造係 03-3578-2295



手作業の職員さんの負担軽減にもご協力を

プラスチック削減の動きが活発化しています。我々が資源ごみとして排出するプラスチック製品は、まず港区の資源化センターに運ばれます。職員が手作業で資源プラスチックを「リサイクル可能なもの（きれいなもの）」と「不可なもの（汚れているもの）」に分け、リサイクル可能品質のものだけを事業者に売却します。

ごみとされる資源ですが、資源だからこそ売却収入で令和2年度は年間1億5,400万円ほど（紙、缶、びん、プラスチック、ペットボトル含む）。品質の良いものは少しですが高く売れます。

日々の分別の効果を実感し、リサイクル努力を形にして資源の循環を視覚化することを提案しました。廃プラスチックなどの資源から商品を製品化するなど、検討が進むことを期待します。

4/1に**みなと科学館**（港区虎ノ門3-6-9）がオープンします。気象庁虎ノ門庁舎と港区立教育センターの複合ビルが完成し、その中に入る科学館はプラネタリウムの他、気象庁の気象科学館とも連携し、身近な科学を学べる施設になります。

恵まれた港区の環境の中で、大人も子供も楽しめる施設になるよう願っています。なお、プラネタリウムは有料です。



港区議会議員 小倉りえこ

◆港区麻布十番出身 港区立東町小学校卒 ◆米国サウスカロライナ大学理学部生物学科卒

◆バイオベンチャー、製薬企業の医薬品研究開発職から港区議会議員へ。現在2期目。

◆港区議会自民党議員団 副幹事長・保健福祉常任委員会 副委員長

〒106-0047 港区南麻布1-4-21-601



小倉りえこウェブサイト



YouTube チャンネル